

令和7年7月7日 福島民友新聞社掲載

令和7年

慶徳稲荷神社御田植祭

子孫繁栄願い、御田植祭

喜多方 慶徳小児童、早乙女姿に



▲ 早乙女姿で神田に苗を植える慶徳小の女子児童

民らが豊作と子孫繁栄を願った。

日本北限の田植え神事で、会津三大御田植祭の一つ。500年以上前の室町時代に始まったと伝えられ、一時途絶えたが江戸時代末期に再興した。かつては慶徳地区に嫁いできた女性が受け継いできたが、現在は地元の慶徳小の児童が郷土の伝統を守っている。

境内で女子児童が早乙女踊りを奉納した。神田では男子児童のしの笛と氏子らの田植え歌に合わせ、早乙女姿の女子児童が田植えを披露した。

国の重要無形民俗文化財「慶徳御田植祭」は6日、

喜多方市の慶徳稲荷神社の神田などで開かれ、地域住

